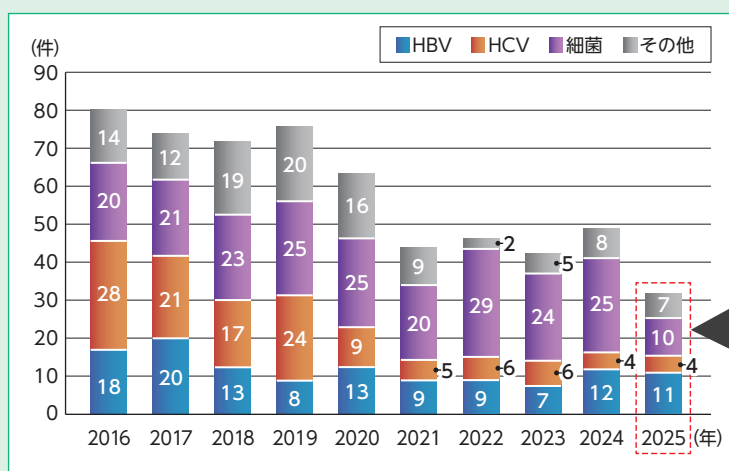


輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 -2025年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2025年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、HBV 1件、細菌 1件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された 症例数の推移と2025年に報告された病原体別の症例数とその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	11	1
HCV	4	0
細菌	10	1
HEV	1	0
HAV	1	0
CMV	3	0
VZV	1	0
パルボB19	1	0
計	32	2

症例概要(献血血液の検体等に病原体等が検出され、 輸血による感染と特定された症例) - 2025年 -

HBV

● 献血後情報: 献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	Ir-RBC-LR* (2024.12)	再生不良性貧血	70代	女	HBs抗原 HBs抗体 HBc抗体	陰性	HBV-DNA HBs抗原 HBc抗体	23週	1,018	23週	回復

*当該献血はHBV-NAT陰性、2025年6月の献血時にHBs抗体及びHBc抗体陽性

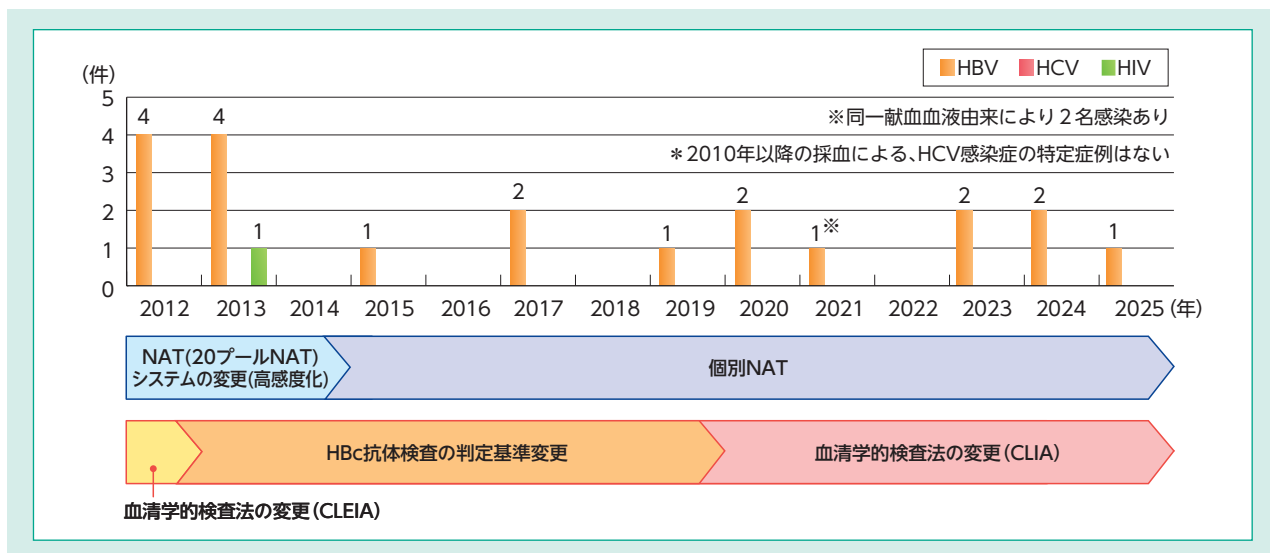
細菌

● 自発報告: 輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

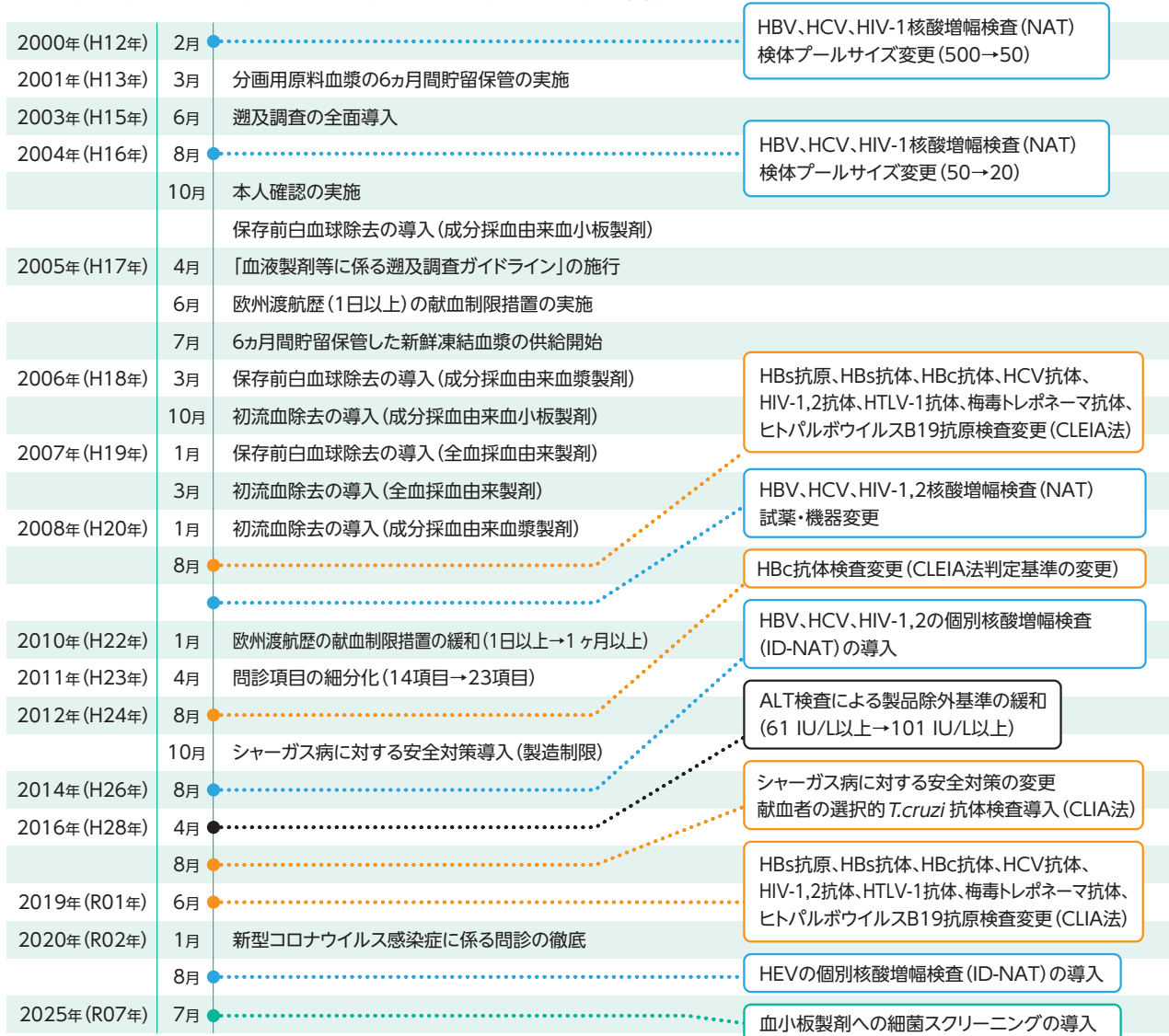
症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	症状	発現時間 (投与開始後)	輸血後の検査結果		患者転帰
							輸血用血液製剤	患者血液	
1	Ir-PC-LR* (2025.6)	急性骨髄性白血病	50代	男	悪寒、戦慄、発熱、血圧低下、心拍数増加	22分	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	回復

*細菌スクリーニング導入(2025.7)以前の血小板製剤により発生した症例

■採血年別輸血後感染症の推移 (HBV・HCV・HIV)



■血液製剤の安全性確保対策の変遷(2000年以降)



1952年(S27年)からの安全性確保対策の変遷を日本赤十字社医薬品情報ウェブサイトに掲載しています。

日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

検索

<https://www.jrc.or.jp/mr/>



輸血情報 2609-192

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号

※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者へお願いします。